

Dellとネットアップの比較： クラウドの準備は万端に



目次

はじめに

3

データセンターに影響を与える3つの波

4

データセンターに関する7つの質問

7

クラウド移行の道を拓くための8つの方法

12

リソース

16

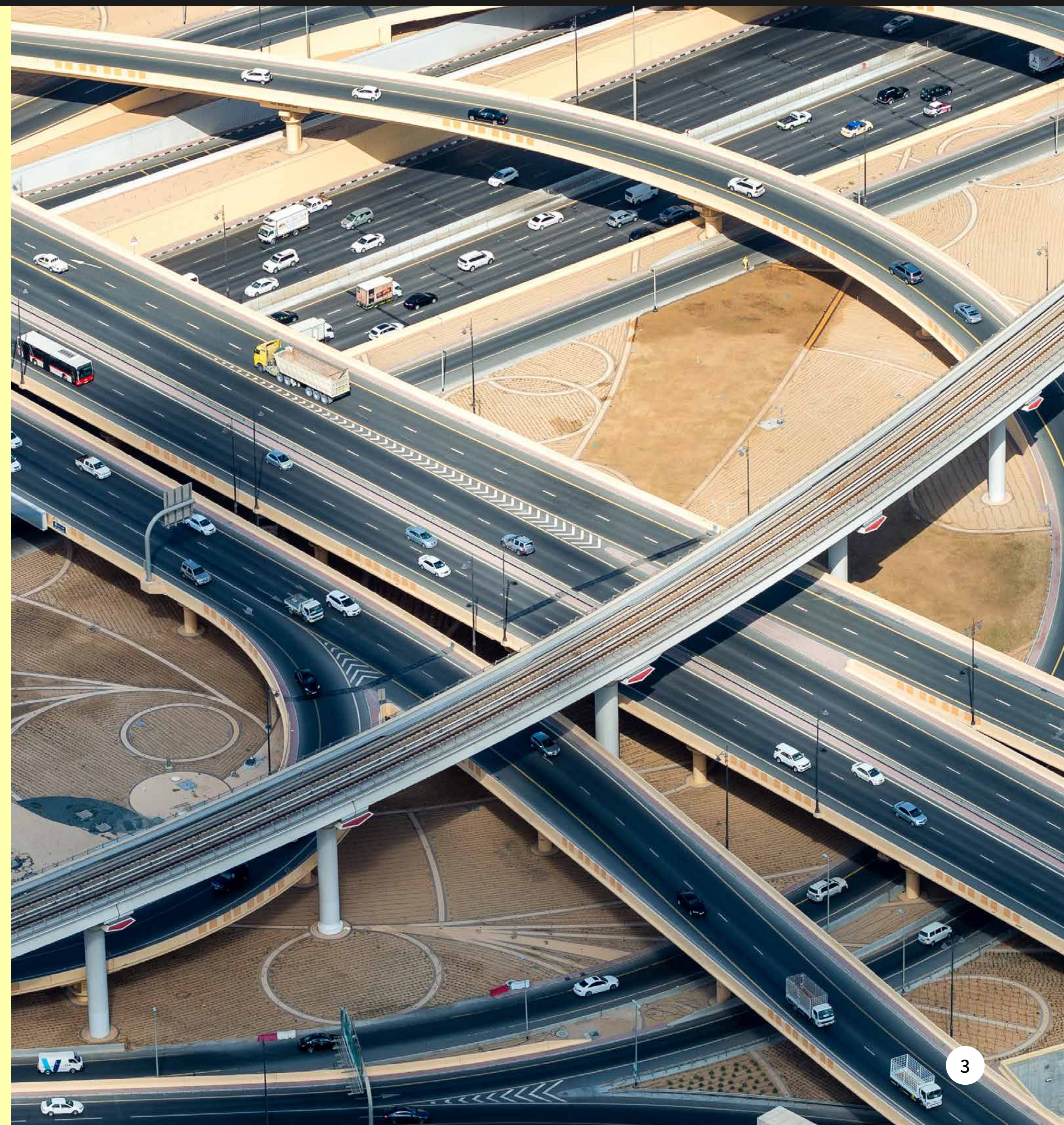
今こそ準備のときです

ほぼすべてが不確かでビジネスの制御が難しい今日において、システムを停止することなくビジネスの継続性が確保されたインフラを構築するための包括的なアプローチが必要とされています。最前線のITプロフェッショナルは、インフラの老朽化に伴い進化したITへのニーズが高まる現状に答えようとしています。

急速に変化するこの状況下で、Dell Technologiesはまたもやデータセンターの移行を求めてきます。

大掛かりなデータ移行の運用コストを全額負担するよう求めるのはDellにとっては好都合かもしれませんが、結果としてお客様にとっては喜ばしいことではありません。今こそ、選択を見直すべき時です。

このEブックでは、お客様のデータセンターが現在どのような状況を把握し、今日のクラウド移行の道を拓くために何が必要かを見極めるために役立つ情報を提供します。



波をとらえ、データと世界をつなぐ

IT進化の波は次から次へと押し寄せてきます。それはまるで海の波と同じように、1つの波は次の波がくるまで収まることはありません。データ サービス市場の進化も3つの波として説明することができます。

1

第1の波： インフラがすべて

ユーザとアプリケーションがデータを作成し、インフラが容量、スピード、効率性に関する機能を提供します。ストレージベンダーの役割は、このデータをセキュアに保護し、アクセスを高速化することです。第1の波は最低限必要な機能です。

2

第2の波： 仮想化の定着

第2の波では、データの定義は変化します。仮想化が広く導入されるようになった今日、アプリケーション、オペレーションシステム、仮想マシンはすべてデータによって定義されます。さらに、仮想化の運用には共有のストレージプラットフォームが必要です。ストレージベンダーの役割とデータ機能は仮想化環境で発揮されるようになりました。この波では、アプリケーションから仮想マシン、作成されるデータに至るまで仮想環境全体を保護できます。データサービスにより仮想環境が向上されます。第2の波を最大限に活用できなければ、問題が生じます。



3

第3の波： データと世界をつなぐ

第3の波では、プライベート クラウド、パブリック クラウド、ハイブリッド クラウド、マルチクラウド、ハイブリッド マルチクラウドのあらゆる形式を含め、クラウドがすべてです。ここでもデータは最も考慮されます。

データの種類、保存場所、保護の有無、セキュリティ対策、コンプライアンス対策に加えて、データを適切なタイミングと場所で、適切なペースでアクセスできるかどうか、

使用するオンプレミスのプラットフォームはクラウド対応か、クラウド統合されているか、必要に応じて世界最大手のクラウドでもアプリケーションを実行できる柔軟性があるかどうか。ここでは、クラウドを活用し、ビジネスで生き残るだけでなく成長するために必要なスピードとイノベーションを実現することで、真の価値とメリットが与えられるということを重要視しています。

データセンターに関する7つの質問

3つの波はすべて継続するプロセスとして進められます。第1の波でデータセンターに問題が生じていますか？データセンターは第2の波をとらえるのに苦労していますか？または、データセンターは順調に第3の波に進んでいますか？

お客様がDellのデータセンターを使用している場合、次に説明する7つの質問からお客様の状況を把握することができます。

1

データセンターが原因で日常業務が煩雑になっていませんか？

Dell製品の問題である運用上の複雑さは、CAPEX（設備投資）とTCOの増大を招きます。またOPEX（運用コスト）に関する「隠れた問題（Hidden Factory）」の原因にもなります。複数のプラットフォームやデータ管理サービスが必要になるため、ユーザは重複するライセンスやメンテナンスの契約の複雑さに頭を悩まされます。投資を簡易化して、財務上のリスクを最小限に抑えられるベンダーへの切り替えを検討しましょう。

2

データのサイロ化が起きていませんか？

Dellはハードウェア企業のため、取り組みはハードウェア製品の多数の課題に重点が置かれています。Dellのポートフォリオを導入しただけでは、すべてのDell製品は連携しません。Dellには5種類の自動化フレームワーク、15種類のコマンドラインインターフェイス、10種類のアプリケーションプログラミングインターフェイスがあります。第3の波をとらえるには、ハードウェアだけでなく、オンプレミスとクラウドで連携するソフトウェアやサービスに関するデータの課題に重点を置いて取り組んでいるデータサービス企業が必要です。



3

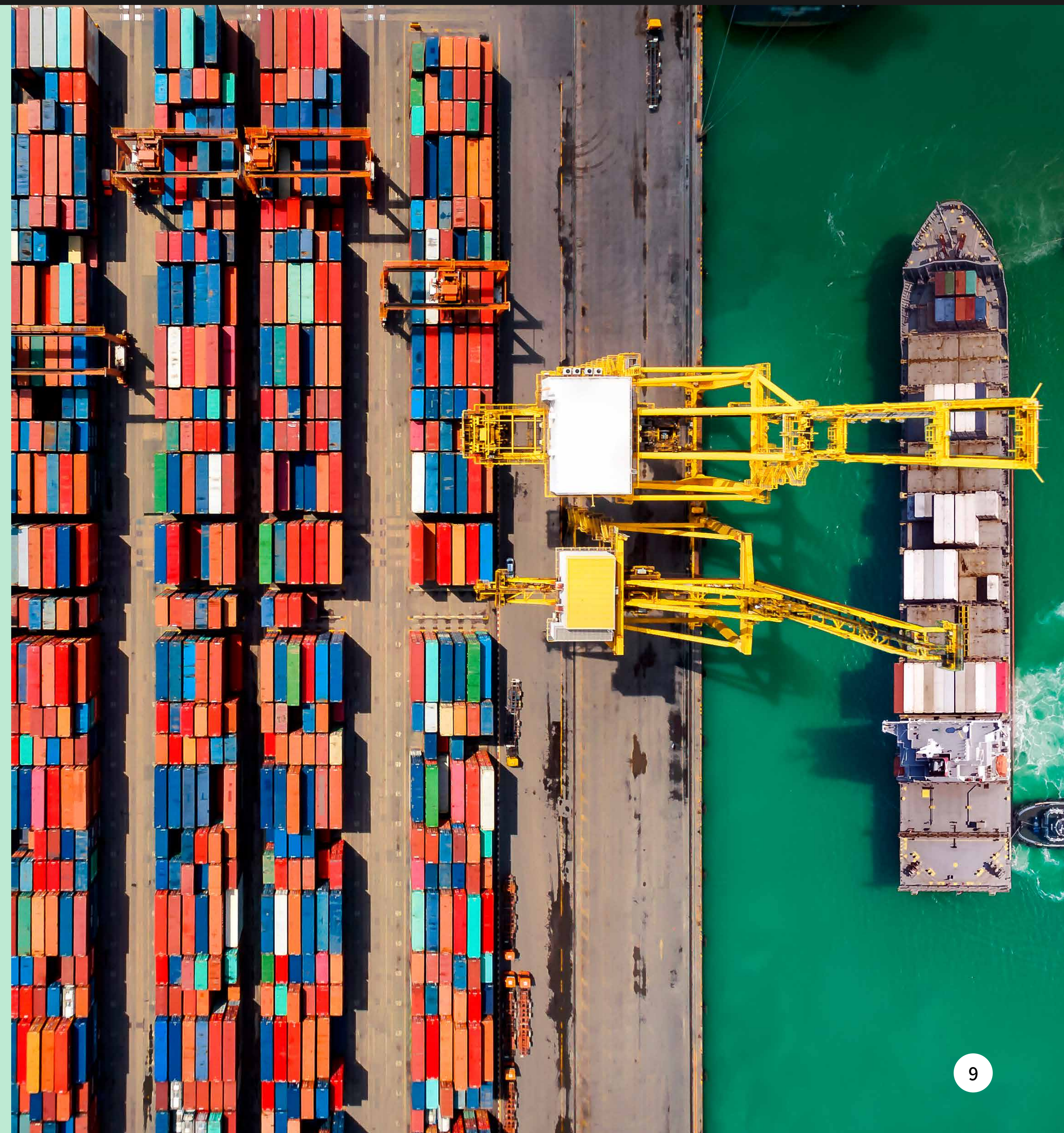
今のストレージベンダーでは、システム停止を伴う移行が当たり前になっていませんか？
（また、導入されているストレージプラットフォームは今後もサポートされますか？）

Dellには、移行によってシステム停止を引き起こした過去があります。一方で、Dellは大規模なポートフォリオの一掃も進めています。28の競合製品のうちの多くが提供終了を迎えようとしているのも当然の結果でしょう。Dellの移行ツールがまた不手際を起こさないと言えるでしょうか。また移行を強いられるのではないのでしょうか。ストレージベンダーは、お客様のデータ移行が簡単かつ効率的に実行されるよう、支援できなければなりません。また、イノベーション促進と運用効率向上の優れた実績により、お客様がオンプレミスとクラウドのインフラを管理、自動化できるようサポートできる必要があります。

4

クラウドへの移行にあとどれだけのVMwareライセンスを購入しなければならないのでしょうか？

Dellのクラウド戦略は基本的にPowerStore vMotion、VxRail vMotion、VMware Cloud in AWSです。これは少し限定的とは思いませんか。Dell TechnologiesはVMware、つまりVMware Cloudを所有しているので、入れ子的に複数のライセンス料金を見込めることになります。本来であれば、ベンダーはお客様のデータセンターにすべて接続できる幅広いパブリッククラウドサービスの選択肢を提供すべきです。



5

お客様のデータセンターは業界の標準的なデータセンターよりも進んでいますか？遅れていますか？

Dellのイノベーションは業界の波に追いつけていません。Dellは、よくリリース日を延期します。ベンダーは包括的なクラウド サービスを提供し、技術革新を継続的に進め、アプリケーション ライフサイクル管理の新しいソリューションを定期的にリリースする必要があります。またお客様による使用状況データの分析が可能である必要があります。データの保護とセキュリティはアドオンとしてではなくテクノロジーとして組み込まれていなければなりません。

6

ご利用のデータセンターは一見クラウドのようですが、実際はクラウドとして機能していないのではありませんか？

これは「フランケンクラウド」と呼ばれています。Dellはプライベート クラウドと呼んでいますが、実際にはクラウドやクラウド対応という意味ではありません。データセンターをベンダーのマーケティング戦略の犠牲にして、「ウォールドガーデン（閉ざされたインフラ）」に閉じ込めておく必要はありません。クラウドを最大限活用するには、真のクラウドテクノロジーが必要です。



7

お客様のクラウド戦略はどれくらい柔軟ですか？ 必要に応じて変化させることができますか？

最も重要なエンタープライズ アプリケーションやワークロードでもクラウドに移行できるようにする必要があります。コスト管理やインフラへの柔軟な対応を実現するハイブリッド クラウド シナリオを構築する能力はDellにはありません。ハイブリッド クラウド アーキテクチャはオンプレミス、クラウド、さらにはその間のどの場所でも、必要に応じてデータを移行できるよう支援します。

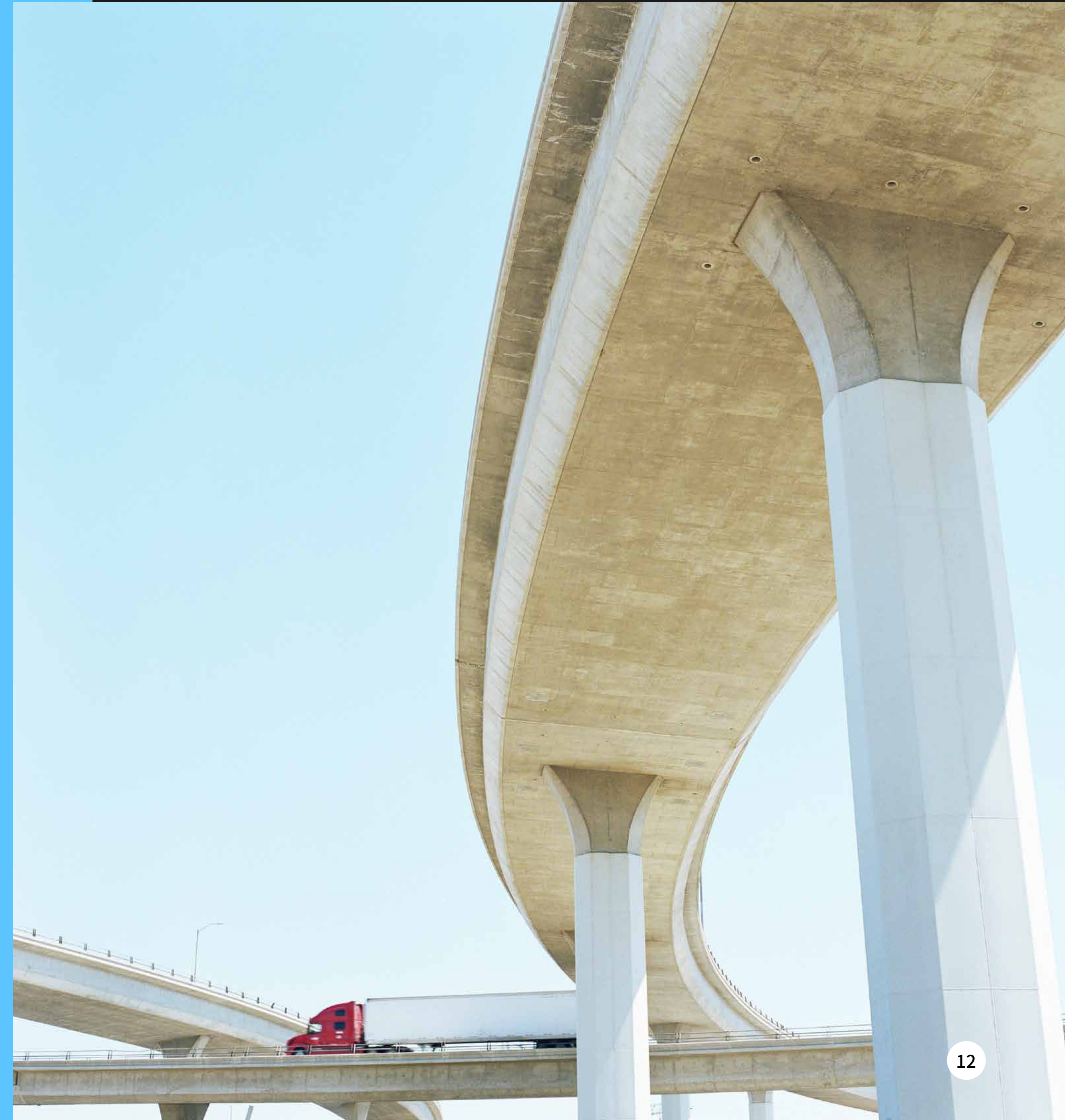
ビジネスを成功させるには、第3の波に乗って到来する最大のチャンスに焦点を置く必要があります。ネットアップは、1つの概念であったデータ ファブリックを、第3の波をとらえるのに役立つテクノロジー ポートフォリオとパートナーシップに進化させてきました。



クラウド移行の道を拓くための8つの方法

ネットアップはイノベーションを推進する明確で堅実なリーダーです。大手パブリック クラウドすべてのサービスをオンプレミス環境に直接統合できるネットアップなら、文字どおりデータの橋渡し役として、貴社の将来のニーズに応えられます。データ ファブリックの構築では、ハイブリッド クラウドはデータとワークロードの移動を実現するための鍵となります。これによりクラウドの真のメリットを実現し、ベンダー ロックインを回避して新たな技術オプションを展開することができます。

この章では、クラウド移行の道を拓くための8つの方法について紹介します。



1

データ、アプリケーション、システム、サービスの状態を把握

NetApp Cloud Insightsは、インフラとアプリケーション全体を包括的に可視化できる監視ツールです。Cloud Insightsを使用すると、パブリック クラウドやプライベート データセンターを含む、すべてのリソースの監視、トラブルシューティング、最適化を実行できます。

2

統合により管理性を向上し手動プロセスを排除

オンプレミスのNFSまたはCIFSファイルの共有、Amazon S3オブジェクト形式、Azure Blob、IBM Cloud Object Storage、NetApp StorageGRID®間でファイルを転送する場合でも、データを迅速かつセキュアに同期します。

3

クラウド ワークロードのパフォーマンスと利用率を最適化

ハイブリッド クラウド インフラとデータ サービスの管理を一元化します。ネットアップは、オンプレミスおよびクラウドのストレージを表示、管理できる一元化されたプラットフォームを提供して、複数のハイブリッド クラウド プロバイダ環境とアカウントをサポートします。これにより、内部および外部ユーザーに最適化されたクラウド ストレージ サービスを提供することができます。

4

バックアップとリストアでデータを保護

ネットアップは不注意による削除、データ破損、ランサムウェア攻撃からデータを保護する機能を備えています。クラウドベースのストレージ サービスを使用している場合でも、SaaSアプリケーションを導入している場合でも、必要とされるのは重要なデータをセキュアかつ迅速にリカバリしてくれるソリューションです。



5

セキュアなデータ サービスでプライバシーとコンプライアンスを常時管理

組み込みのAIによるデータ プライバシー管理とデータ コンプライアンスに関する取り組みのサポートを利用して、組織のデータ プライバシー プログラムを強化します。

6

自由自在に管理

オンプレミス環境とハイブリッド クラウド環境をシームレスに管理できるツールで運用効率を向上させます。データ ファブリックの構築と管理に必要なすべての機能が準備されています。

7

シンプルなIT投資

お客様に必要なインフラをAIが提案する消費モデルと所有モデルの2つのモデルで、財務上のリスクを最小限に抑えます。ストレージ効率、パフォーマンス、可用性が保証されるので安心して導入できます。運用は簡単なうえ、好きなクラウドで拡張できます。

8

クラウドの種類を問わないイノベーション

エンタープライズ ワークロードをAzure、Google Cloud、AWSに迅速に導入して、優れた即応性、オーバーヘッドの低減、動的な拡張を実現します。VMや統合ワークロード向けのオンプレミス インフラを自動化できるデータ ファブリックを、クラウドの種類に関係なく構築できます。



次のステップ

面倒な移行を見直すなら、 今がチャンス

将来データセンターの移行を検討しているなら、クラウドの準備を万端にしておきましょう。それには、クラウドに関する個別の意思決定を組織の戦略上の目標に反映させるためのフォーマルな戦略を策定する必要があります。つまり、クラウド移行を見据えたデータセンターの準備が整っていることを確認しておかなければなりません。

第3の波では、すべてにおいてクラウドが重要になります。お客様のデータセンターにすべて接続できる幅広いクラウド サービスの選択肢から柔軟かつ自由に選べるように、データ ファブリックの構築を支援してくれるパートナーも欠かせません。

リソース

[Dellとネットアップの比較](#)

[ネットアップのハイブリッド クラウド ソリューション
移行オプション](#)

[Cloud Insightsの無償トライアル](#)

[クラウド移行の評価に関するEブック](#)

ネットアップについて

ジェネラリストが多い世界で、ネットアップはスペシャリストとしての存在感を示しています。お客様がデータを最大限に活用できるようにすることを1つの目標として、支援に全力を注いでいます。ネットアップは、信頼できるエンタープライズクラスのデータサービスをクラウドにもたらし、またクラウドのシンプルな柔軟性をデータセンターにもたらしめます。業界をリードするネットアップのソリューションは、さまざまなお客様の環境や業界最大手のパブリック クラウドに対応します。

クラウド主導のData-Centricなソフトウェア企業であるネットアップは、お客様に最適なデータ ファブリックの構築をサポートし、クラウド対応をシンプルに実現し、必要なデータ、サービス、アプリケーションを適切なユーザにいつでも、どこからでもセキュアに提供できる唯一のベンダーです。

